

## 朝の礼拝

## 聖書 ルカによる福音書 15章 11-32節 (新約聖書 139頁)

11 また、イエスは言われた。「ある人に息子が二人いた。12 弟の方が父親に、『お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください』と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。13 何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄遣いしてしまった。14 何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。15 それで、その地方に住むある人のところに身を寄せたところ、その人は彼を畑にやって豚の世話をさせた。16 彼は豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった。17 そこで、彼は我に返って言った。『父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。18 ここをたち、父のところに行って言おう。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。19節 もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください』と。』20 そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。21 息子は言った。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』22 しかし、父親は僕たちに言った。『急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。23 それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。24 この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。』そして、祝宴を始めた。

25 ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。26 そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。27 僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』28 兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。29 しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さん

に仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。30 ところが、あなたのある息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』31 すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。32 だが、お前のある弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』

### 喜び迎える父親

試験が終わりました。終わった後、校長室前の廊下ですれ違った英和生の笑顔は、最高の笑顔でした。

試験と言えば、人生にはいろいろな試みがあり、評価があります。例えば、いまのたとえ話で言えば、お兄さんは何年もお父さんに仕えて、一度も言いつけに背いたことがないので完璧な息子です。100点満点の息子と言えるでしょう。

でも、お父さんやお母さん、先生の言ったこと、教えてくれたことを覚えて、正しく答えるだけが人生の点数ではありません。例えば、仲間と一緒に歌い、踊り、演じ、奏でてやり遂げたこと、体育祭で力を合わせ、また研修旅行で学んだこと、気づかされたことには点数にできない価値や達成感があります。

そして人生には怠けて、失敗して、後になってふり返り、気づかされることがあります。根気強く指導して下さった先生の面影が、夜遅くまで一緒に起きてくれた家族のことが思い出されます。そして何よりも自分自身の弱さに気づかされます。それは情けない、後悔することかもしれませんが、後でふり返ると尊い経験につながります。

それは、そんな不思議な出会いと経験、導きと恵みを与えて下さった方の存在、ちょうど放蕩息子のような弱い自分を、無条件に赦し、家に迎えてくれる父親のような存在に気づき、何にも変えられない喜び、感謝、生きる希望を与えられる経験です。

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、わたしたちを励まされる主よ。

あなたは、私たち英和をどんな時も喜んで迎え、祝宴の席に招き、慰め、祝福して下さいます。どうか、前期の学びをふり返り、励ましを与え、夏休み、後期の学びへと続きますようにお導き下さい。また、今、様々な理由で就学、就労の困難な生徒、教職員のために祈ります。どうかその艱難を耐え、あなたの慈しみを悟り、あなたのみ前で共に感謝を献げる日をひと時でも早くお与えて下さい。主イエス・キリストによってお願い致します。

アーメン